

SYMPHONY

外国人の雇用について

今後、団塊の世代の方が増えていくといわれる 2025 年度に向かって、国では地域包括システム(団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を目途に、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供される体制のこと)の構築を目指しています。

しかし、介護職員は 2023 年の必要数に対し 23 万人が不足するとされています。ニッポン一億総活躍プラン(平成 28 年 6 月 2 日閣議決定)ロードマップにおいて求められる介護サービスを提供するための多様な人材確保、生産性の向上の具体的な施策として、「介護職員が現場に定着し、安心して働き続けられるよう、雇用管理改善のための強化を図る」ことが挙げられています。そのため、当法人でも介護職員が長く働ける取り組みとして、腰痛予防のためのリフトの導入、気づきシートによる業務改善、ICT 化の導入に向けて検討しています。また、今年度、国の制度により賃金のアップの施策として、介護職員等ベースアップ等支援加算の措置があり、2 月から支給されることになりました。

厚生労働省の資料によると、2025 年度に必要な介護職員は約 243 万人です。2019 年度の介護職員数が約 211 万人ですので、2025 年度には約 32 万人の介護職員が不足する計算になります。さらに 2040 年度には 280 万人の介護職員が必要と予測され、約 69 万人を追加で確保しなくてはならないこととなります。

厚生労働省は、介護人材不足に対する介護人材確保対策として、主な取組みを 5 つ掲げています。①介護職員の処遇改善 ②多様な人材の確保・育成 ③離職防止・定着促進・生産性向上 ④介護職の魅力向上 ⑤外国人の受入環境整備、など総合的な介護人材確保対策に取り組むとしています。

そのため、当法人でも外国人の新たな採用に向けて、浜松日本語学院と浜松未来総合専門学校(国際介護福祉課)と連携して、留学生の学生を受け入れています。現在でも、当施設に浜松未来総合専門学校の留学生 1 名(フィリピン)が来年 1 月に介護福祉士の国家試験の合格をめざし学びながら働いています。また、働き方も真面目に勤務もしてくれていますので入居者の皆様から喜ばれています。

今後も、留学生の採用も視野にいれながら、新たな人材確保の一つとして取り組んで参りたいと思っています。また、介護業界全体で「魅力ある職場づくり」への意識の底上げを図り、介護人材の確保を図っていきたくと思っています。

施設長 水谷秀夫



介助における職員の感染対策



当施設では新型コロナウイルスの感染防止の為、職員は勤務中マスクを着用し、食事介助・口腔ケアの際はフェイスシールドを着用しています。

これからの季節は、外気温が高くなり浴室内の温度・湿度の上昇に伴い、入浴介助時は職員の体調管理の為、マスクを外して対応させていただくことがあります。

感染対策として、浴室内の換気を徹底し、マスクを外して対面の会話はしないように介助いたします。

何卒ご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

委員会活動について

今年度から第三長上苑は、地域密着型という施設の特徴を活かすため第三長上苑としての委員会活動を行って参ります。今まで第二長上苑とともに行ってきた委員会活動と大きな違いはありませんが、第三長上苑の実情に合わせた活動を行っていくこととなります。

今までより、さらにタイムリーに開催できるようになり、入居者様、ご家族様のお声や思いを職員が共有し、日々の介護にすぐ反映させることが可能となります。

今年度は「リスク委員会」と「行事委員会」という二つの委員会を設けました。この二つの委員会を柱に、枠にとらわれず様々な事柄について意見を出し合って進めて参ります。

次回から、それぞれの委員会について説明させていただきたいと思っております。

第三長上苑介護係長 大地隆友

記

○面会方法: 窓越し面会とオンライン面会とさせていただきます。

面会をされるには事前に予約が必要となります。

予約連絡先 053-411-1133(第三長上苑)

○面会時間: 月～金の 9:30～15:00 までとなります。

(第一、第二、第三水曜日の午後は都合により、中止させていただきます)

(9:30 に午前の面会開始、15:00 が、午後の最後の面会開始となります)

※詳しくは予約の際にお尋ねください。



七恵会で働いている外国人職員

第三長上苑 TEL 053-411-1133


6月の行事食

6月2日(木) フルーツ盛り合わせ

フルーツはみずみずしいスイカと国産のメロンを提供いたします。ゼリーは青梅ゼリーか杏仁豆腐のどちらかをお選びいただけます。イカとメロンという季節を先取りした新鮮なフルーツと口当たりの良いゼリーをお楽しみください。

食べるものに季節感がなくなつたと言われてますが、フルーツに限らず季節感を大切にした食事を提供して参ります。

管理栄養士 名畑三千恵



レクリエーション活動など

5月、おやつをユニットで作りました。

愛ユニットでは「ぼた餅」。幸ユニットでは「フルーツみつ豆」を作りました。今の季節は「ぼた餅」ではなく「夜船(よふね)」と呼ぶ季節かもしれません。

「昔は甘いものがなくて、あんこが嬉しかったよ。」

「そうだね、でも今みたいに甘くないだよ。」

「みつ豆はデパートの屋上で子どもと食べたやあ。」

「きれいで美味しそうだね！ハイカラだね。」

食べ物は、味や香りなど五感を刺激して、その人の記憶を呼び起こします。朝・昼・夕の三食とは違った味を、おやつとして提供して参ります。

どちらのおやつも入居者様それぞれの食事状態に合わせ、形態は違いますが、同じ味を楽しんでいただきました。

また、出前、散歩など楽しみと気分転換を兼ねたレクリエーションを行いました。



手作りのおやつ



廃油で石けん作り



5月10日(火)は、入居者様と石鹸作りを行いました。

材料は家庭の廃油(使用済みの天ぷら油)と水、苛性ソーダを混ぜて作ります。中でも一番重要なのが30分ほどずっとかき混ぜ続けることです。入居者様が交代でかき回して下さり、茶色だった液体が、きれいな乳白色になりました。それを牛乳パックへ移し、1か月ほど乾くのを待ちます。

「初めて石鹸作ったよ。自分で作れるとは思わなかったよ。」入居者様も興味津々です。

入居者様にお使いいただくわけには参りませんが、物を作る楽しさを感じていただきました。

布団の入れ替え



冬布団



夏布団

5月の中旬に、掛け布団の入れ替えを行いました。冬場は軽くて暖かい羽毛布団をお使いいただき、夏に向けては、吸湿性と速乾性の高い布団へ毎年、春と秋に交換しています。

これからの梅雨の時期には、布団をお日様に当てることのできない日も多くなります。そこで冬にも活躍した2台の布団乾燥機を使って、布団だけでなく、ベッドのマットレスやパッドなども乾燥させると同時にダニ退治を行っています。

人生の1/3は布団の中だと言われます。

入居者の皆様が、気持ちよく睡眠をとっていただけるよう室温管理だけでなく寝具にも配慮しております。



布団乾燥機

心遣い



1階ホールの自販機前のテーブルに、パートの職員が定期的にお花を飾ってくれています。

自販機前のテーブルは、入居者様がリハビリを終えてひと休みしてジュースを飲んだり、入居者様同士、また職員と雑談をする憩いの場となっています。そんな場所に生き生きとした美しい花が飾られていると、気持ちも和らげられます。

さりげない心遣いなのですが、どれほど入居者様の心を癒してくれているかわかりません。

優しい心遣いのできる職員に感謝です。

6月の行事予定

日	曜日	時間	内容
2日	木	15:30	フラワーアレンジメント
7日	火	未定	坂の上 FCL 回診
10日	金	14:00	天王病院 回診
13日	月	9:00	理美容
16日	木	15:00	経口維持会議
20日	月	未定	入居者様 体重測定
21日	火	10:30	防災訓練
24日	金	10:00	自動車文庫
24日	金	14:00	天王病院 回診
28日	火	未定	坂の上 FCL 回診

赤えんぴつ

新しい入居者様を受け入れる時、ご家族様の不安なお気持ちがよくわかります。施設であっても、大切な家族を他人の手に委ねることにためらいを感じられると思います。

広島カープの元選手衣笠祥雄さんが現役の時にファンからこう野次られたそうです。

「衣笠！本当は俺たちがグラウンドでプレーしたいんだ。だからお前たちが頑張らないと腹が立つんだ。」

ファンは自分がプレーしたいけれど、それができないから自分の分身として選手を応援しています。

これは介護にもいえると思います。「本当は自分たちで面倒を見たいけど、したくもできないから施設に任せているんだ。」と、ご家族の皆様は思われていることでしょう。

こうしたご家族様の思いを第三長上苑では大切にしています。

第三長上苑 守屋三千夫